



毎月一日発行  
発行所 社会  
宗像大像  
福岡県宗像郡玄海町  
電話 神港 代表26番  
定価一年送料共500円

神具 装束  
結婚式 用品  
本社 九州店  
福岡市吉塚一丁目二五番二号(〒八三三)  
電話 福岡(三三) 六五九四五六番  
福岡市下区油小路六条北入(〒八三〇)  
電話 京都(三五) 一三二二(代)一四四番  
電話 京都(三五) 一三二二(代)一四四番

# 勅使御参向を仰ぎ 遷宮奉祝大祭齋行さる



① 天皇陛下からの捧げものを奉じて勅使参進 後方にみえる建物が新築の勅館

## 遷宮の概略

宗像大社遷宮大祭は、菊養の昭  
和四十六年十一月十日、遷座の  
儀、十二日、奉幣の儀と両日にわ  
たり、勅使御参同の下に厳修された。  
祭儀は先づ十一月九日午前九時に  
齋行された洗清の儀から開始され  
た。朱の色も鮮やかな御本殿を次  
々に洗清め、外陣の畳の匂  
が清々しい。権宮司の奉饗により  
式は完了した。この頃から境内は遷  
宮大祭に要する諸具が搬入され夫  
々の粗立てが始められた。万一の  
天候に慮って仮飯の折願殿より本  
殿まで長さ三〇〇米、巾三米の天  
幕を張り、連日雨降臨が完成され  
て行き、千名に近い参列者の取合  
可能な大直会場の天幕が次々に張  
られて行く。亦、境内で開催中の  
菊花展も大社の盛況を伝えた。  
萬信者より続々と引後一週間に  
経たぬ日までに奉納物が運び込ま  
れ係の職員はその整理に大変なな  
つた。  
十一月十日午前九時清座の儀が  
行われた。晩方近くまでかかった  
諸準備も凡て完了し黎明と共に境  
内は静寂をとりもどした。これら  
の凡ての施設を祝い清めるこの儀  
式は先づ神職三員が拝殿に昇殿し  
大祝詞を奏し次に大願、塩湯を執  
つて本殿、幣殿、拝殿遷座の儀を  
祝つていった。齋館ではこの頃か  
ら勅使参進が開始された。正午ま  
だに勅使参進が開始された。正午  
村青年、宗像青年会議所二十員復  
興期成会関係二十員全員は齋館  
が終った。午後十一時三〇分太刀  
奉納式が仮飯に於て執行行われ  
た。出光佐三氏奉納山貞一則定  
刀振、太田清成氏奉納守次則定  
作宗奉納刀一振、出光弘氏奉納  
末次繁作奉納兼太刀一振。  
午後一時清座の儀に於て御装束神  
宝詔の儀が行われる。復興期成  
会長が進める送文を神職が受け、  
これを次に読み上げ、宮司が詳  
らかに奉饗し異状なきことを確認  
し、復興期成会長にその旨を伝え  
儀式は終了した。その後、御装束  
御神宝は衛士下の警固の下に川原  
所に運び込まれた。午後三時勅使齋  
行が到着され奉仕員全員は

正面参道において奉迎した。  
暮色に田島神社の神楽が響き、午後  
五時、境内御前の浜に設けられた  
祓所において川原大祓が行われた。  
祓所前庭に遷座の儀に使用する威  
儀神宝を飾り右側に真新しい装束  
を着けた奉仕員が列立し祓をう  
けた。  
夕食後午後七時参進の儀(奉饗  
祭典)を行つた。明日の盛況  
を想いつつ参進の時間では終了  
した。この後参進の儀は遷座の  
儀まで参進の儀に於て熱心な練習  
が繰り返された。  
十一月十一日、太旗がのぼるに  
従つて空に青みが増す。この頃  
更参進の儀に於て熱心な練習  
が繰り返された。  
十一月十一日、太旗がのぼるに  
従つて空に青みが増す。この頃  
更参進の儀に於て熱心な練習  
が繰り返された。

## 国土守護神としての崇敬を

此の度、宗像大社の御遷宮の祭  
典が催されるにつしましては、畏  
れ多く皇皇と御遷宮の御遷座下  
に、我々は恐る多しと感激致し  
て居る次第で御座居ます。厚く  
御礼申し上げます。  
此の宗像大社は皆様御承知の通  
り国民の祖神と仰がれ、そして皇  
室の守護神、国土の守護神として  
我々が御遷宮の御遷座下におき  
ながら、真神と仰がれておられた  
事、又神として最高神であり  
ました。御遷宮の御遷座下におき  
ながら、真神と仰がれておられた  
事、又神として最高神であり  
ました。御遷宮の御遷座下におき  
ながら、真神と仰がれておられた  
事、又神として最高神であり  
ました。

## ますます神徳の宣揚を

秋の季節に好季節に恵まれ宗像  
の宮はに莊厳な神光を再現し  
目出度、古式で世に大祭典を  
執行する事に成功した。  
宗像大社復興期成会が完成され  
て以来、実に三十年の歳月を要し  
ここに、神徳の宣揚、勅使齋行  
手水、献食と共に昭和建國の神  
聖なる日本最大の新願殿等の大  
復興工事は昭和四十四年七月に着  
工し、二七年の急ピッチで進めら  
れ、竣工費約億円を費した大復興  
事業の姿はここに觀て完成致し  
ました。  
これは偏りに出光長を以て中心に  
復興期成会、又これに御協賛され  
ました多くのの方々熱心な御協力  
と、加えて工事関係者の誠実な復  
興期成会の意図に沿って仕事を  
進められたのであります。遷座祭  
奉幣祭に際しては、御遷宮の儀  
が、工、二七年の急ピッチで進めら  
れ、竣工費約億円を費した大復興

宗像大社宮司 久保輝雄

# 宗像大社復興事業完成

## 経過報告

復興期成会事務局長 内田 澄

昭和十七年十月十日、第七十九回帝國議會衆議院に於て、大社、社殿境域の復興に関する建議案が可決されましたが、戦局の急迫により、遂に其の実現を見る事が出来ませんでした。同十七年十一月、当時、貴族院に席を置かれていた、出光佐三議員は、地元の衆

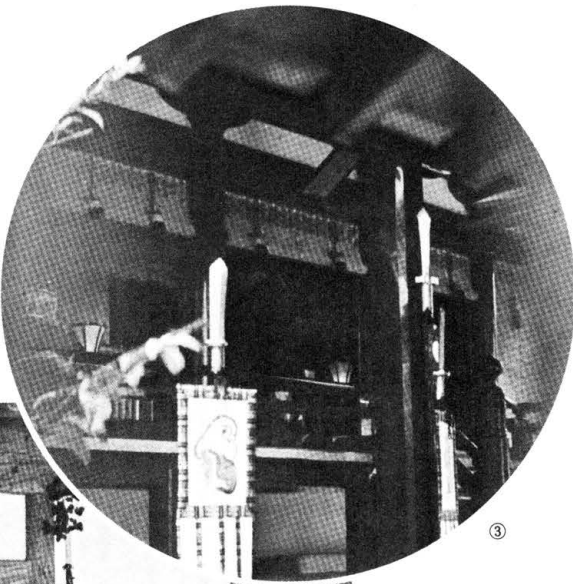
望を担い、宗像大社、復興期成会会長となり、朝野をあげて、御復興に尽力されました。しかし乍ら戦局は利あらず、日本の歴史がつて以来の惨な敗戦と共に、御復興事業も、一頓挫を来さざるを得ませんでした。それから数年、古く神代の昔、神勅のまにまに

赤誠あふれる神再建の信願をこぼし、出来ず澎湃として起きた、復興期成会会長を中心とする、崇奉の御復興への熱意は、昭和二十七年九月、戦後わずか七年にして、下高宮境内の復元となつて再び、その端を辿り始めました。

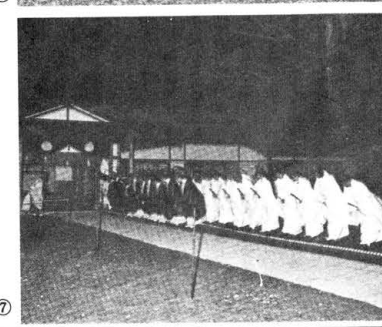
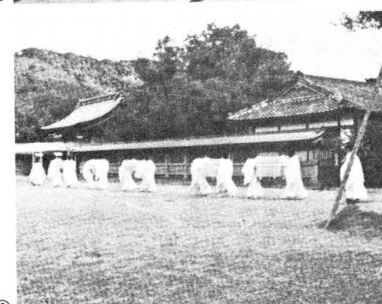
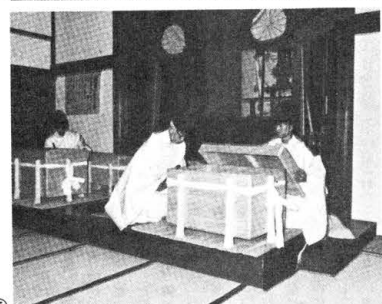
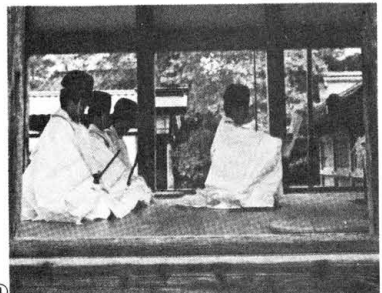
天降りました宗像大神降臨の聖地にかきわし、古代祭祀をそのまに、残す神籬の齋場の出現をこころに見ることが出来たのであり、再び選ばれて命長となられた、出光復興期成会会長の下に、役員顧問六十九名、各界を代表される崇奉者の方々が御就任されて、この昭和大造営事業のスタートが

万数千点に及ぶ貴重な資料の保存と研究が出来るようになりました。其の間、神社史の編纂、沖ノ島の数次に亘る学術調査により、大々と立証されて来ました宗像大神の御神徳は、漸く衆目の認識と理解とを深めて参りました。

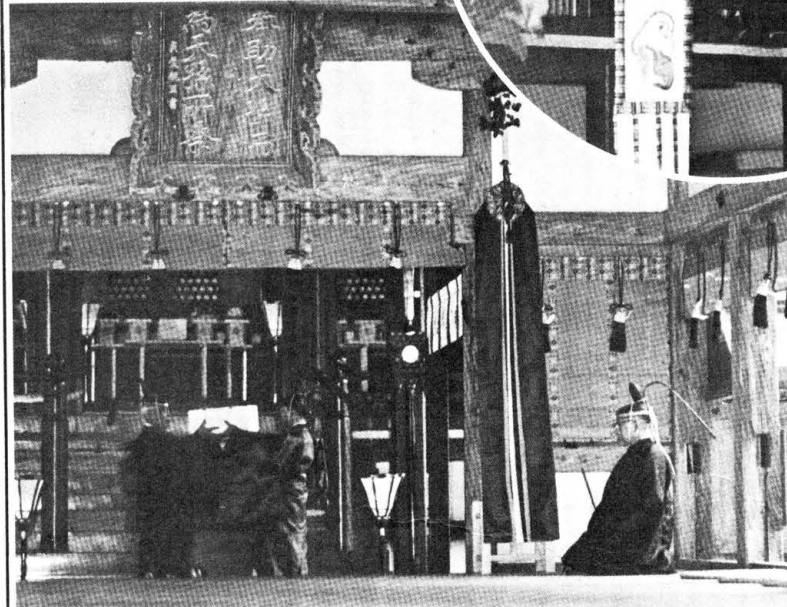
続いて昭和四十四年九月、国の重要文化財であります辺津宮御本殿の解体修理が始まりますと共に、翌八月二十日宗像大社復興期成会会則の変更と役員の改選が行われ、再び選ばれて命長となられた、出光復興期成会会長の下に、役員顧問六十九名、各界を代表される崇奉者の方々が御就任されて、この昭和大造営事業のスタートが



(写真説明)  
 ② 御神体を奉じて仮殿から本殿へ、浄暗の中を進む遷御の御列。雅楽の壮麗な調べが遷御道を包む。  
 ③ 勅使祭文奏上、遷座となった本殿外陣において勅使が祭文を奏上される。  
 ④ 清祓の儀、祭儀に先立ち本殿拝殿を始め仮殿、遷御道を祓清める儀式である。



⑤ 神宝読合、復興期成会より奉納された神宝を讀合せ、宮司が奉読する。  
 ⑥ 川原大祓に先立ち、齋館前庭に列立した神職。  
 ⑦ 奉幣の儀、天皇陛下からの神げものは、勅使から宮司に進められる。宮司はこれを受け、本殿へ奉安される。  
 ⑧ 仮殿(折願殿)での祭儀、これから仮殿の御扉が開かれる。  
 ⑨ 奉幣祭が終。奉祝式典に向われる勅使役員







# 遷宮大祭に参列して

宗像大社氏子会長 立石 昇

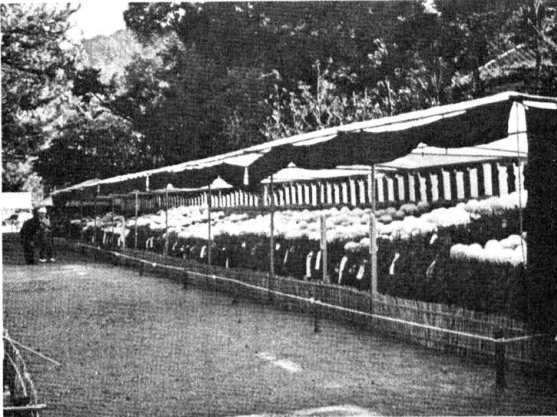
宗像郡民多年の宿願であった祖り、諸事が厳かに執り行なわれ、神像社の復興事業も遂に完了して、ここに宗像の宮廟は、荘厳な神苑に再現いたしました。そして、私達は待ちに待った遷宮大祭が、畏くも勅使を迎えようとする佳日を迎えたのであります。

十一月十一日、秋晴れの一日も暮れなむ頃、折願殿から神像に至る約百メートルの参道の傍に、新を焚く燈塔が点々と灯されました。午後六時、私も供奉員は、千載一遇の祭儀に列する光栄を噛みしめながら、宮司以下祭員及奉仕員ら全員と共に、斎館の前庭に列立して、手水の儀をすてて参進し、観音の前で時を待たされました。

午後七時、神鼓の音が神苑に、高らかに鳴り響くと共に参進。祝祭員、奉仕員百余名の後に続いて、斎館にお祈りを受け、宮司以下、祭員、奉仕員百余名の後に続いて、假殿となつての大折願殿に入り、供奉員一同は祭員の反対側に列いたしました。宮司の御前に合せて全員一様に、これら遷宮の儀に移って行きました。殿内では古代から伝わる数々の祭式に則り、諸事が厳かに執り行なわれ、やがて宗像神三柱の御神霊が、飯殿を出御遊ばされる時刻は、殿内はじめの神域は、一斉に滅灯され、庭燈等も全て消されて、静闇の中、松明のあかりのみが参道をかすかに照らしています。私も供奉員は、御神霊の威儀を心から祈りました。

境内の一隅に張り巡らされた大テントの中で、奉祝式典の後、直会に移り、やがて三々伍々打ちつが、好天のもと祝賀と賑やかな花展を鑑賞しつつ語り歩く人々の姿は、真に神に相応しく感嘆ましい状況でありました。

奉祝行事も十二日の献茶祭、各種奉納舞、十四日には伊模、剣道柔道の高校生生徒の参加を見たこと、十五日の七五三の心ふるさとも、この十五日の心ふるさとである氏子に親しむこと、而もこれが、青少年育成の好機会であったことを考えます。精神面の復興という点から、奉祝行事の意義もまた、大きいものであったと感しております。



宗像大社遷宮奉祝祭を機に結成された菊花盆花展は、去る十一月一日から二十日まで、宗像大社境内東参道に於て開催されたが、予想をはるかに上廻り、西日本最大規模となり盛大に終了した。

十月初旬、奉祝の瑞気に満ち満ちた大社境内には、北九州各地の愛好家が陸続と逸品揃いの菊をトラックで搬入し、みるみるうちに境内東参道は優雅なる菊の香りに包まれた。

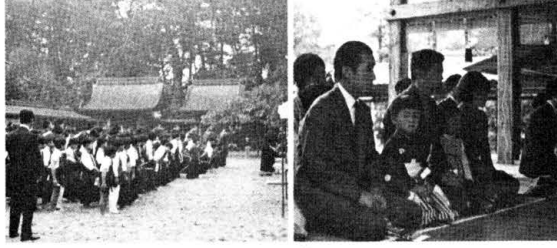
総務員三千三百餘に達し、このため用務員一名が菊の世話にかかりきりとなった。

遷宮大祭の参行される十一日頃は、これらの菊が丁度満開となり、参拝者の目を惹きました。十四日には拝殿前へ入賞者の表彰式が行われた。

表彰者は左記の通り

大輪 高田 太助  
大輪 南部  
大輪 門司  
大輪 直以  
大輪 高茂良  
大輪 古波蔵忠  
大輪 高松伊達孝  
大輪 千崎新之助  
大輪 小沢新之助  
大輪 伊勢野大輪 筑豊  
大輪 川崎正水 小輪 筑豊 坊村光成  
大輪 復興期成会 大輪 伊勢野大輪 筑豊  
大輪 大輪 筑豊 石坂寿英 小輪 新川 一天  
大輪 南部 広渡健寿  
大輪 川野盛 小輪 竹内豊  
大輪 個人花壇 鞍手 田中正生

## 西日本随一の菊花展

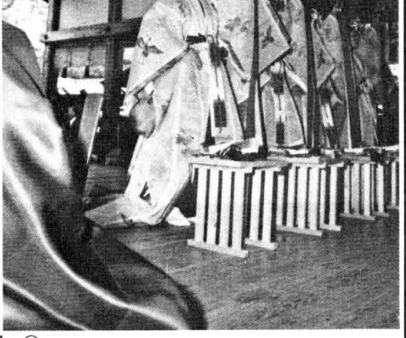


今月に入つて以来、晩秋の好日と恵まれて、茲に世紀の大祭典が、盛大に参行され、私ども氏子として、この心構えを忘れず、明き清き心をもって神に任ず、御神徳の宣揚に、神を通じての道義昂揚に一層の誠を致し度いと誓を新にするものであります。(終)

宗像大社は、御本殿の修復と神域の整備により、住古の荘厳な姿を回復いたしました。出光会長は「神社の復興はこれで終わったのではない。これからまだやらねばならぬ仕事がある」と述べられました。

久保宮司外社担当局長、其の御関係者各位の晝夜を分たぬ御辛勞に対し、氏子を代表して衷心より感謝の意を表する次第であります。

奉祝行事も十二日の献茶祭、各種奉納舞、十四日には伊模、剣道柔道の高校生生徒の参加を見たこと、十五日の七五三の心ふるさと、この十五日の心ふるさとである氏子に親しむこと、而もこれが、青少年育成の好機会であったことを考えます。精神面の復興という点から、奉祝行事の意義もまた、大きいものであったと感しております。



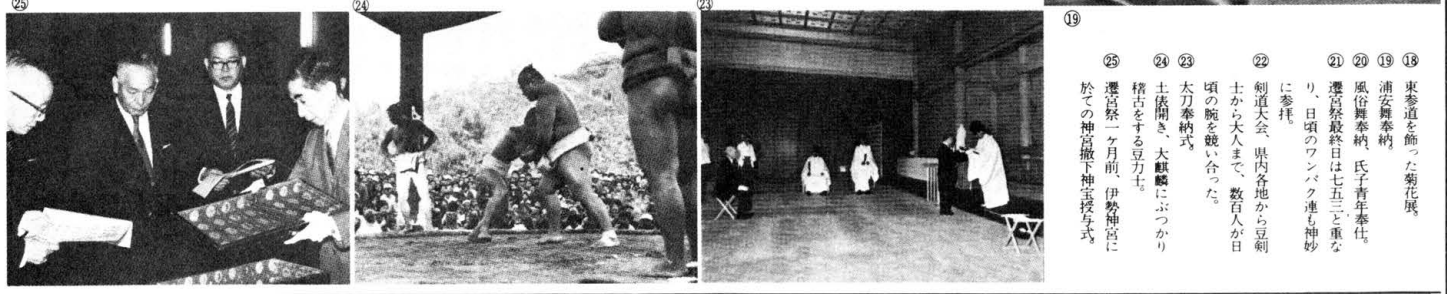
東参道を飾つた菊花展  
宗像郡奉納 氏子青年奉仕  
遷宮最終日は七五三と重なり、日頃のワンパク連も妙妙の参拜

創道大会、県内各地から豆刺士から大人まで、数百人が日頃の腕を競い合った。

大輪奉納式  
土佐開き、大旗幟にぶつかり稽古をする豆刺士

遷宮奉納舞、伊勢野神宮に於ての神宮撤下神宝授与式

## 遷宮奉祝祭スナップ



## 復興期成会のあゆみ(一)

- 昭和十七年 十月二十五日 宗像神社復興期成会を組織を都内町村長に議決可決。
- 十一月七日 貴族院議員出光佐三、当社復興の件につき神祇院副総裁飯沼一省に請願す。
- 十一月十七日 創道大会、県内各地から豆刺士から大人まで、数百人が日頃の腕を競い合った。
- 十一月二十日 宗像神社復興期成会が結成。出光佐三、同会長に就任。
- 昭和十八年 四月一日 当社復興期成会委員会を開催す。(以後度々行なう)
- 四月二十日 土地買収委員会を開催す。
- 昭和十九年 一月二十日 下高宮各地の土地多量を買取し神苑とす。
- 三月二十日 当社復興期成会委員、小島経作他史料を調査す。
- 昭和二十年 十一月二十三日 宗像神社復興期成会事業の一時休止を決定す。
- 昭和二十一年 五月十二日 復興期成会委員会を辺津宮社務所において開催す。
- 八月一日 社史を調査するため宮地直一他來社、調査講演
- 昭和二十四年 十一月十二日 國土辺津宮神社修復調査のため国土庁投書并奉進す。
- 十一月二十三日 高宮土地委員会を辺津宮において開催し高宮参道問題について協議す。
- 昭和二十五年 三月二十六日 協議会を中津宮において開催し沖ノ島本島は従来より神社の所有とし邊津宮用地は神社より水合とすべく、大蔵省に申請すること可決す。
- 四月二十八日 高宮参道一定地測量のため宗像土木事務所、古賀秀雄辺津宮に來社す。
- 昭和二十七年 一月十二日 邊津宮本殿破損状況視察のため文化財保護委員会事務局、佐野文二郎、辺津宮に來社す。
- 二月二十五日 重要文化財辺津宮本殿保存修理通知を文化財保護委員会より接受す。
- 三月三日 邊津宮本殿修理監督のため係員一名來社駐在す。
- 三月七日 邊津宮本殿修理起式を執行す。
- 四月七日 邊津宮本殿屋根葺替のため假遷座祭を執行す。御駕代を拜殿に奉遷し即日着工す。
- 七月六日 重要文化財辺津宮本殿維持修理工事設計変更許可願、同工事修理費下附額を文化財保護委員会発給す。
- 八月八日 田島村婦人会による高宮整地奉仕作業始まる。
- 九月十日 辺津宮相撲場工事を開始し二十八日完了す。
- 十一月五日 辺津宮境内に新設の相撲場手水舎の竣工奉告祭を執行す。この日儀開きに日本相撲協会横綱照土儀入りを奉納す。
- 昭和二十六年 二月六日 田島村長、農地委員、高宮用地所有者の三者会談を辺津宮において行なう。
- 三月六日 辺津宮隣接地下保連、〇四三番地、山林三七坪を占部要市より買上げ神社財産として登記す。
- 三月十日 高宮用地地上段二、二八〇番地用地二九坪を買上げ神社財産として登記す。
- 六月十二日 高宮用地登記履行裁判を東郷簡易裁判所に申請中のごとく登記完につき裁取取下書を提出す。
- 六月二十五日 邊津宮本殿修理調査のため文化財保護委員会建設物課技官森政三、辺津宮に來社す。
- 七月十日 当社所在地川端九〇番地の二、山林九歩を鎮興寺に無償譲渡す。
- 昭和二十七年 二月十日 重要文化財辺津宮本殿修理工事着工届を文化財保護委員会に提出す。
- 一月十二日 邊津宮本殿破損状況視察のため文化財保護委員会事務局、佐野文二郎、辺津宮に來社す。
- 二月二十五日 重要文化財辺津宮本殿保存修理通知を文化財保護委員会より接受す。
- 三月三日 邊津宮本殿修理監督のため係員一名來社駐在す。
- 三月七日 邊津宮本殿修理起式を執行す。
- 四月七日 邊津宮本殿屋根葺替のため假遷座祭を執行す。御駕代を拜殿に奉遷し即日着工す。
- 七月六日 重要文化財辺津宮本殿維持修理工事設計変更許可願、同工事修理費下附額を文化財保護委員会発給す。
- 八月八日 田島村婦人会による高宮整地奉仕作業始まる。
- 九月十日 辺津宮相撲場工事を開始し二十八日完了す。